

思想・文化情況の〈現在形〉を射抜く
批判的視座を求めて

La Vue

ラ・ヴュー
No.7 (2001/09/01号)

発行人：山本繁樹
発行所：るな工房／黒猫房／窓月書房
大阪市東淀川区菅原7-5-23-702 〒533-0022
TEL/FAX 06-6320-6426
http://member.nifty.ne.jp/chatnoircafe/index.html
E-mail：YIJ00302@nifty.ne.jp

映画

映画学事始め

大阪大学大学院文学研究科教授

上倉庸敬

映画の 勘どころはすべて、日本の映画人から教えてもらった。

加藤泰さんでも深作欣二でもマキノ雅弘でも巨匠って、画をつけるの、ほんとにうまいですよ。五社英雄さんの『陽暉楼』（昭和五八年）でも、主役は女衛だけど、女衛とは何かなんて、説明し出したらけっこの手間を食ってしまっただけ。でも五社さんは、十五秒で表現するんです。ト書きには、女衛のセリフとして「……」とあるだけです。

（日下部五郎聞き書き『FB』十五号、FB同人発行、行路社発売）

映画研究誌『FB』に聞き書きを掲載する目的で、何人かが集まり『仁義なき戦い』、『極道の妻たち』のプロデューサー日下部五郎さんの話を聞いている。

女が売られてくる。すると女衛役の緒方拳が、自分の前にちょこんと正座させて、女の口をぽつと開けるんです。開けて歯をコンコン、コンコン

目次

- ◆映画学事始め——映画研究者失格の記 上倉庸敬
- ◆緑の国のインディアン 小原まさる
- ◆新宮市住宅地図調査日誌——新宮で読む中上健次 村田 豪
- ◆「本」の取り寄せ奮闘記 山田利行
- ◆倫理って何なんだ〜！——倫理の共有は可能か? ひるます
- ◆編集後記

No.8は2001/12/01発行予定です。
■無断転載を禁じます■

映画研究者失格の記

と叩く。で、その次は、着物の身八つ口からスツと手を入れて、おっぱいをこわさるんです。ほいで、後ろ向きにさせて、お尻まくって、手をこわ入れるんです。二回ほど。それで百円、身体値段ですよ、バンと出しよるんです。

こんなこと、嘘かもしれない。けれども一発で分かるじゃないですか、女衛の、人買いのいやらしさまで。こういう演出を見ると、ほんとに「こんな画、なんで作れるんかなあ」と思いますね。

（日下部五郎聞き書き『FB』十五号）

八年前

者によびかけて、映画評論家の滝沢一さんが『FB同人』を組織した。同人誌『FB』を定期的に刊行するといふ。

滝沢さんは関西における映画評論界の第一人者だったから、大映の京都撮影所の所長だった鈴木晰也さん、詩人の杉山平一さん、ジャーナリストの浅野潜さん、映画監督の中島貞夫さんなど、いろいろな分野の映画関係者がよびかけに応じて参加した。そ

の隅っこに入れてもらった。同人になって、自分が映画について何も知らないことを思い知った、美学を勉強しているという立場から幾分なりと発言できるつもりでいたのだが。

森一生監督の未亡人、典さんは昭和十年代にスクリーンにいた女性である、お話をうかがって『FB』創刊号のための聞き書きをつくってこい、と滝沢さんにいわれた。でも聞きながら、典さんが話題にのぼせる人々と現場の情景が、アタマのなかで少しも動いてくれない。それも当然で、スクリーンにないし記録係の仕事がどんなものか何とも知らず、一つ一つ確かめながら話をすすめるありさまだったから。とりあえず聞き書きを纏めたが、それに目をおしてもうまえに滝沢さんが亡くなった。ボーゼンとした。一九九三年七月十一日。創刊号が追悼号になった。

滝沢さん

ちの面倒を見てやってくれと頼まれたんだ」と、中島監督が声をかけてくれた。創刊号の聞き書きをよんで鈴木晰也さんが「おもしろなかつたね」と、おもしろくない理由を懇切に教えてくれた。四十も半ばで「若い」もないもんだっただけで、こうして映画の勉強がはじまった。

勉強は、ひとりです。本をよんで、分からない部分を痒いところへ手が届くように先生から教えてもらえれば、もつといい。FB同人は、知識も経験も智慧もあるよい先生ばかりだった。

昔のようなかたちでは映画はもう絶対に作れないでしょう。いまや監督がひとり海外に行つて映画を作らないといけない時代です。これでこれを撮るんだという説明をして、向こうが納得するだけのものがあれば、外国でも作れると思います。

映画は独力でできませんよ。いまの若い監督はプロになっていないから、まず特別な天才、才能をもっていて、そのうえで、「あの監督で、こんな脚本。これならタダでもええから出したい」とか、「タダでもええからカメラマンが名乗りたい」とかいつて、女優や名カメラマンが名乗りをあげてくれれば、ええ映画ができます。並の才能ではあきません。厳選された才能やないと。日本映画に望みをかけるとすれば、よっぽど優れたものが出てくるのを、待つしかないと思います。

（鈴木晰也聞き書き『FB』二二号）

21世紀の心理学に向かつて

京都大学の現状と未来——
◆京都大学心理学教員連絡会編
40名余の研究者がその研究を熱く語り、次に現役の大学院生・卒業生の生の声を聴く。京大心理学へのガイドブック。2000年10月10日発行 2000円10税

◆暴力の文化を克服する——
◆心理学研究会編
暴力の連鎖を断ち切り、平和の文化を創造するための処方箋を、心理学の立場から提言する画期的な書。2000年10月10日発行 2000円10税

平和を創る心理学

大坂見聞録

関西藩士池田正樹の難波探訪
渡邊忠司「難波噺」を読み解く歴史散歩。近世大坂の名所・旧跡・風聞・人物・伝承・事蹟を訪ねる。2000円10税

関西地学の旅2
街道と活断層を行く
大阪地域地学研究会 近畿圏の活断層28カ所を案内する。1500円10税

バリの伝統美
萩野矢慶写真集 バリ独特の伝統芸術の色彩美を紹介。1500円10税

モンゴル 草原を渡る風
岡本美知子写真集 モンゴルに魅せられた写真家のカラー作品集。1600円10税

仏教書と四天王寺書林
大阪の本
*小社直営。TEL06-6779-9531

【東方出版】 <税抜>
〒543-0052 大阪市天王寺区大道1-8-TEL06-6779-9571 FAX06-6779-9573

VOYAGER

T-Time 2.0

インターネットが縦書きで！
スイスイ読めば理解に差がでる
Windows & Macintosh CDDROM ● 二四〇〇円10税
ISBN4-89476-202-1

Windows & Macintosh CDDROM ● 四〇〇〇円10税
ISBN4-88752-017-4

より詳しい内容、T-Time機能限定版は
http://www.voyager.co.jp/T-Time/

ボーイジャー
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-41-14
tel: 03-5467-7070 fax: 03-5467-7080

ペボトル興亡史

ボクが出版をやめたわけ

雑誌「夜想」WAVE「銀星倶楽部」「UR」などを中心に80、90年代の文学・アートシーンを先導した伝説的インディペンデント出版社、ペボトル工房。ペボトル工房はなぜ「解散」しなければならなかったのか？その20年の歴史を振り返る。各紙誌で絶賛、話題沸騰！

今野裕一ほか著
ISBN4-925220-04-7

冬弓舎
京都市左京区一乗寺馬場町10
TEL&FAX: 075-722-3267
http://thought.ne.jp/

映画誕生から未来までを、
極致に達した美しい映像とともに
体験する。

映画史

ジャン=リュック・ゴダール
ビデオBOX (全4巻)
最新マスタリング版
限定2001セット発売
価格:27,000円+税【商品番号】K-0020
全8巻、未曾有の映画宝庫が世界初のVHSステレオで完成！

第1巻 第1章1A【すべての歴史】
第2章1B【ただ一つの歴史】
第2巻 第3章2A【映画だけが】
第4章2B【命がけの美】
第3巻 第5章3A【絶対の貨幣】
第6章3B【新たな波】
第4巻 第7章4A【宇宙のコントロール】
第8章4B【敵は至る所に】

1998年フランス/268分/日本語字幕/カラー(一部モノクロ)/フランス映画社提供/パヴ・シリーズ作品/字幕翻訳:映画史翻訳集団2000/特典:「ゴダール映画史テキスト」(全96頁、劇場用限定発売本)無料進呈!

●発売元:MAGICA ●販売元:紀伊國屋書店
DVD版BOX製作中 2001年秋発売予定

紀伊國屋書店 映像情報部
TEL:03-5469-5917/FAX:03-5469-5957
http://www.kinokuniya.co.jp

ナカニシヤ出版

〒606-8316 京都市左京区吉田二本松町2
TEL:075-751-1211 FAX:075-751-2665
http://www.nakanishiya.co.jp

北野武

監督のまわりにはスタッフ
かなりの予算を人件費以外に注ぎ込むこと
ができるそうだ。その「HANA-BI」
「Brother」を見ながら、鈴木さんの七年も

前の言葉を思い出していた。よい先生は未
来も正確に推測する。先生たちの指示を受
けて、べつの先生のところへ話を聞きに行
った。

溝口健二さんの作品も、ドラマの背景
を非常に大切にしていますね。ひとくち
にワンシーン・ワンカットっていわれま
すが、あの撮り方はアップを撮っても、
同時に奥も大切にしています。アップの
うしろで、いろんなひとが動いているのを
入れようとしたら、背景も全部つくらな
いから。でも、そうすれば、その背景の
なかから、主人公のドラマが浮かびあが
る。アップの裏にある社会、その社会に
もとづいたアップ、それをつくるのが溝
口さんはとてもうまくつたですね。溝口
さんは宮川(一夫)さんともそれをやっ
ておられますが、『浪華悲歌』や『祇園
の姉妹』を撮った大先輩の三木さんと
もそうでした。

「カメラマン吉田貞次聞き書き」『F
B』三号

帰ってきてから中島監督に質問する、「撮
影はすべてカメラマン任せが溝口と聞い
ています。それなのに、なぜ『撮り方』と
いえるんですか」。先生の答え、「ここでは、
どこから撮られてもいい被写体を溝口さん
が作っていたということ、吉田さんがキ
ャメラマンの立場から語ってるんだ。だと
すれば『撮り方』ということになりますよ」。
「被写体づくりって何ですか」。中島監督は
あきれてわたくしの勤め先で集中講義をし
てくれた。その講義録が纏まって本になっ
ている。

「シヨット」は撮影するときの単位で、
カメラが動き出して止まるまで。「カ

ット」はフィルムを編集するときの単位
で、一つのシヨットを二つのカットに使
ったりは頻繁ですから、両者は区別して
使ったほうがいいでしょう。

(中島貞夫「映画の四日間」、醍醐書房刊)

たいていの本では、シヨットとカットに
違いはないと書かれている。だが、映画の
製作現場では、二つを使い分けねばならな
いくらい厳密さが必要とされるのだろう。
映画研究の文章は少なくともわたくしの場
合、言葉づかいばかり小むずかしく、言葉
とそれが指し示す事実の関係について、現
場におけるほどには緻密さに意を用いてこ
なかつた。

被写体は時間をもつていて、一シヨッ
トにおさめられた時間は被写体もつて
いる時間と同じです。フィルムはフレ
ームによっても限定されますので、空間的
にも時間的にも限定された一つの単位、
これがシヨットです。

しかし、映画を構成するための、いち
ばんの基本は「シーン」です。映画のも
つとも根幹をなすものです。おおまかに
いえば、場所が変わらず時間が連続して
いけば「同一シーン」ですが、シーンの
時間はシヨットと違って、現実の時間と
一致しながら連続しているわけではな
い。あえていうと、それは構成的に連続
している時間です。

編集の基本的な考え方は、最初にシー
ンのなかを、しっかりとした一つのシー
ンとしてつなぐ。つぎの段階で、シーン
とシーンをつなぐ、ということ。

(中島貞夫「映画の四日間」)

シヨット

をつなぐモンタージュ

を利き、カットで映画を見ていた自分が恥
ずかしかつた。シーンを把握し、シーンと
シーンの繋ぎに目を向ける、という訓練を
重ねていなかつたので、わたくしはしばし
ば、鬼面ひとを驚かすといった体の、目も
彩な画面だけを見ていたようである。映画

づくりの初歩も知らず、研究だの論放だの
といったところで始まるまい。基礎知識も
基礎訓練も自分には欠けていることを痛感
した。

いまでも

状況は変わらない。
自身のことは、もう

あきらめた。感覚が鋭敏で感受性もゆたか
な、それこそ「若い」ひとに向けて、きの
う聞いたことをきょう伝えることに徹して
いる。シナリオは映画づくりの作業計画書
であり、それは日本語で書かれていたほう
が分かりやすいでしょう、だからまず日本
映画で勉強なさい、とかならずつけくわえ
るが、それは外国映画を見るにはおおよば
ないというつもりでは毛頭ない。

「映画を楽しんで上手に見ることもでき
ないで、映像がどうの複製芸術がどうのも
ヘタクレもありません。映画学なんて

多文化

緑の国のインディアン

1 納豆とローストビーフ

仕事の関係で、ここ数年何度もアメリカ
のワシントン州を訪問する機会があつた。
ワシントン州はご承知の通り、緑の多い美
しいところで、森林資源が豊かである。レ
ヴィーストロースの「仮面の道」の題材と
もなつたこの地域のインディアンの木文
化に対する関心と、個人的には森林鉄道の
歴史に興味があつたことから、私にとって
は、とても魅力的な地域となつた。その中
で、あるアメリカ・インディアン(ネイ
ティブ・アメリカンと表記すべきであると
の意見もある)との出会いは、私にとって
貴重なものであつたし、その後の自分自身
の考え方に影響を与えるものであつた。
いまから五年ほど前のこと(一九九五年)
だが、文化交流プログラムの学生として、

のはまだありません、それはきみたちの世
代ではじめてつくられる学問です。これは
実感である。わたくしのことを棚に上げて
はいない。一つの表現手段ができてわずか
百年で、それについての「学」が立てられ
はすまい。学問はそれほど安易なものでは
ない。★

■プロフィール(かみくら・つねゆき)一九四九
年横浜生まれ。大阪大学大学院文学研究科教授、
美学・芸術学専攻。キリスト教の思想が芸術にあ
たえた影響を勉強している。映画研究誌「FB」
同人。主要論文・「芸術学前史―芸術と芸術作品
―」(芸術学フォーラム)、芸術学の軌跡―神林
恒道/太田喬夫/上倉庸敬編・勁草書房、所収)、
「バラ、そしてジャズシン・フェデリコ・フェリー
ニ」(道)の象徴作用―(象徴主義の光と影)宇
佐美齋編著・ミネルヴァ書房、所収)、「日本映画
における生と死」(生と死の文化史 懐徳堂ライ
ブラリー4)(懐徳堂記念会編・和泉書院、所収)

他の学生とともに一人のアメリカン・イン
ディアンが、私の町を訪問した。学
生といつても彼は四十才に近かつたが、と
ても気さくで明るい性格の持ち主だつた。
彼は他の学生がいやがる「納豆」を、食事
のたびにうまいと言って食べ続け、大いに
私たちホストの気持ちを和らげ、人気者に
なつた。彼はみそ汁や日本酒も楽しんだ。
ところで、彼は教師を目指していた。生活
するために入った軍隊をやめて、彼が本当
にやりたいことを始めるために大学で学ん
でいたのだ。

翌年

問した。大きな家ではないが、
整えられた室内は快適だつた。あちこちに
インディアン文化を感じさせる美しい絵
や置物が飾られている以外は、ごく普通の

小原まさる

アメリカの家だつた。私は奥さんの手料理
のおいしいローストビーフをいただいた。
奥さんは小学校の先生で、教師をめざす彼
にとつては先輩だつた。インディアンは家
系を大切にし、お嫁に行くときには刺しゅう
による絵物語でその家系を示した美しい
布を作ってもらうことなどを、実物を見せ
ながら説明してくれた。

2 オレゴン・トレイル

そのころ彼が書き上げた卒業論文のテー
マは、西部開拓の象徴ともいえるオレゴン
街道について、アメリカ・インディアン
の立場から記述することだつた。私はすばら
しいアイデアだと思った。滞在中に学校の
ホールを借りて、彼は私達のためにインデ
ィアンの踊りを披露してくれた。観客は、

第3回 2001年9月23日~30日

■特集/阪妻百年
国際シンポジウム「京都・太秦と世界の映画都市」(京都市文化会館)

■太秦スター特集(祇園会館)

■特別企画「ロシア帰りの日本映画」(京都市右京区ふれあい文化会館)

<市民との交流イベント>

■前夜祭■新京極シネマトークin菅原寺■玩具映画からデジタル映画
まで■芸術センター映画トーク■自分史ワークショップ■田村高廣さん
と中島貞夫監督が皆様をお迎えするシネマ茶話会

同時開催 京都国際学生映画祭2001 9月15日~19日
ウイングス京都女性映画祭 9月28日~30日

詳細は、京都映画祭実行委員会事務局までお問い合わせください。
TEL:075-213-4300 FAX:075-213-4311
http://www.kyoto-filmfes. E-mail:film-fes@box.kyoto-inet.or.jp

私たち日本人と友人の運営する乗馬学校に所属する白人の子供たちだった。彼と彼の奥さんが見事なダンスを見せてくれた。

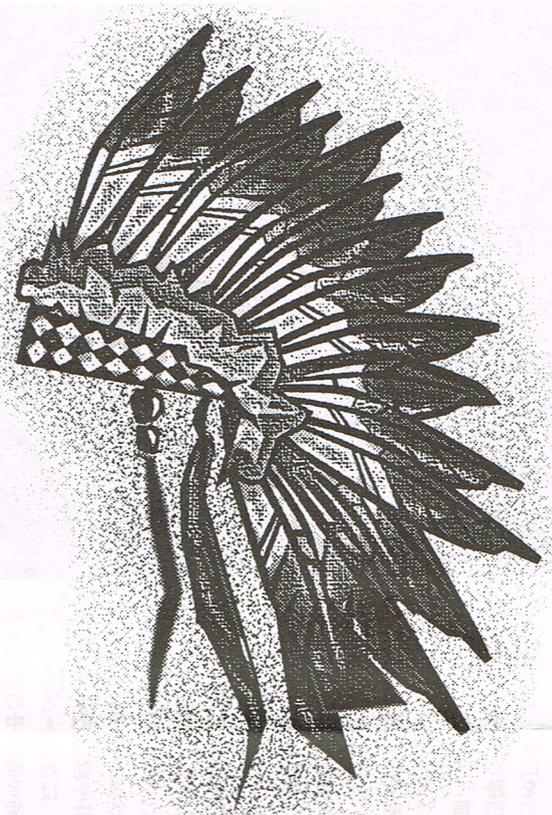
友情

の踊りを皆で楽しんだ後、彼はその美しい装束のまま、オレゴン・トレイルの話を乗馬学校の子供達に対して始めたが、彼の熱意にもかかわらず子供たちの関心は、彼の話よりその衣装に向いていたようだった。帰り際に「おまえは友達だから」と言って、彼はあのすばらしい羽根飾りの一本を切って私に手渡した。「これはお守りになるんだ」。

数年後またアメリカで、彼に再会した。餃子セットだけがおいしい日本食レストランで、その後の彼の状況を聞いた。彼は大学に残りさらに勉強を続け、インディアンのための小学校の校長先生になった。そのことを聞く私には彼はもともとと感激して欲しかったのだろうが、それが彼らにとつてどれほど画期的なことであるのかを、私は理解していなかった。とりあえずお祝いの言葉を言ったものの、彼の態度は何かもどかしげなまま、そして私の表情もポカンとしたまま、数秒経過することになってしまった。彼は繰り返した、「校長になるんだよ!」。彼は、彼がこの地域で最初のインディアン出身の校長先生になること、それがすごいことなのだと言っているのだった。そこにいる私は、全く説明のしがいのない、気楽な日本人以外のものではなかった。それでも私は、彼らにとつての現実がそうしたものであること、そしてそれをこの場で直ちに理解して次の言葉で彼の努力に対して最大の賛辞を表すべきであることを察知した。そして、あらためてビールで乾杯した。

もつと

驚いたのは、インディアンが自身の言語を学校で習うことができるようになったのは、一九六九年からのことであるという点であった(私はその頃そんな事実も知らなかった)。そしていまでも多くの異なったインディアン言語があるという(北米では植民地化以前に最低でも三〇〇の言語が話されていたが、



その数は減少し、今では一七五とも一五〇とも言われている)。さらに、彼らの困難は、彼ら自身で、子供たちに教えるための、彼らの近代史を書かなければならないことだ。白人による開拓の歴史は記述されていても、彼ら自身の自身による歴史は空白のままである。彼の卒論は彼にとつてその第一歩であった。いまさら歴史を逆転できるわけでもない、しかしまたこの現実にも立ち向かうことをやめるわけにもいかない。彼は、これからインディアン自身による歴史やことを教える始める、そういう立場にいた。だが私は彼の表情の中に彼の自信と希望を感じていた。

3 破壊と反省

そもそもこの地域の豊かな緑が、トーチム・ポールで知られる木の文化を育んだ。いま、オリンピック半島では、森林の保護が叫ばれている。木材会社は植林をし、主に日本への輸出のために、限定されたエリアでの計画的な伐採に努めている。それでも、伐採現場近くには、伐採に反対する看板が目立つ。オリンピック国立公園を中心にした半島の森林保護運動は相当強力なものだ。しかし、この反対運動は、もともと住人であるインディアンのものであるというわけではない。そうではなく、もともと住人を追い出し、さんざん木を切り倒し、開発を進め、簡単には再生できないほどの破

壊の末に、自らその過ちに気づいた者たちの反省の姿である。誤解を恐れずに言えば、一種の内輪ももちろん内輪もめでもその意義は十分にある。しかし、イ

ンディアン立場からすれば、調子のいい連中だということになるだろう(ただし、インディアンもまた、その権利として認められた漁業権が故に、環境破壊者として批判される場合もある)。

私は

た実態の上に出発点があった虚構であるとか、思いのほかひどい社会であるとかをここで言いたいのではない。そのように考える前に、こうした現実を、たとえ過去の日本によるアジアの国々への政策についてはもちろん、日本人がアイヌの人々にしてきたことや北海道の開発の歴史の中に同じように存在するのではないかと、自らに問いかけてみるべきなのだと思う。アメリカにしろ日本にしろ、若干の時間的な違いはあるにしても植民地化政策は類似した痕跡や傷跡を残している。そしてそれは、どちらもそれほど遠い過去の話ではなく、どちらにおいても問題は現在も継続している。これらのことを認識することの方が重要である。しかも、たとえ過ちに気付いた人がいても、国家の方針の転換はとて遅い。ほとんど消滅寸前とも言われるアイヌ語、それは同化政策の結末であり、もう取り返しがつかないほどだ。もはや歴史は逆もどりしてはくれない、しかし、なんとかしなければならぬ。その状況は同じである。釧路の自然保護運動等も、破壊者

であろう。少なくとも、私は、私の出会ったアメリカ・インディアンの一人が、自分達自身の言語や歴史を自ら教えることを、いまから可能にしようと努力していることに共感するし応援したいと思う。しかしこれはもちろん、彼一人だけの問題ではない。アメリカでは、こうした問題は八十年代後半には、歴史家のなかでもかなり明確に指摘されている(私自身、これでは遅すぎると感じた。偉そうなことを言うようだが、それは、アメリカの歴史家の意識がもう少しいい線に達しているはずだろうという、私の頭の中の勝手な思い込みに基づく反応に過ぎなかつたといまでは思っている)。

「開拓者やその子孫が、自らの過去について彼ら自身の解釈を述べた本を出版する権利があるように、インディアンは、彼らの伝統にしたがつて自らの歴史を書くべきだし、書くことができる。(中略 けれども、そこには、これらのすべての本を、すべての視点に注意を払って読む人たちがいるべきなのである。(Patricia Nelson Limerick)」

4 宇宙と歴史

アメリカの歴史をインディアンの視点で見ること、そしてそれを受け入れること、アメリカの文化そのものが豊かになることも期待できるだろう。たとえば、アメリカの民主主義の形成過程では、もともと民主的だったインディアンの社会の影響が大きいとの見解もある。また、前述の森林保護の運動にしても、活動の中心は白人であつても、インディアンの精神がその支えになつていと言えよう(八十年代から森林保護運動を積極的に展開したユダヤ系の有名なヒッピーは、ネイティブ・アメリカンの教を学んでいた)。我々もインディアンから何か学ぶことができるかも知れない。その価値は大きいかも知れない。

だが

それは歴史というものの自体の問題である。この地域のインディアンは、それぞれの言語を持つ(または共有する)驚くほど小さな集団とグループ相互の富の再

分配のための独特のシステムを持つてはいても、国家という概念を持たなかつた。出来事や宇宙を説明する神話を持つてはいても、私たちがのような仕方では歴史を記述するすべを持たなかつた。彼らが、共存のための知恵に従って、歴史を持たず、そうした小さな集団を形成していったとすれば、そしてその故に外敵の侵入に対して、あきれるほど無力であつたとすれば、それは情けないほど悲しい文化的な皮肉である。

もつと

ことは、本来彼らの文化になじまない行為である(宇宙を解き明かすこと)によって自らの位置を見つけること、歴史の中に自らの存在を説明しようとする事との間は、想像できない程のギャップがある。だから、一方的に語られる歴史に抗して、彼らが敢えてそれをしなければならぬことの意味と、その必要にせまられた状況の複雑さを、私たちは、本質的には理解できないかも知れない。しかし、実は、この問題はとても身近なものなのであり、歴史が語られることによつて、人が見失うものが何であるのかを考えると、私たちがとつても非常に重要なことなのだ。だが、たとえばアイヌの文化の視点から日本文化を見直すという、最近注目されている言わば内側からの作業には、どれほどの人が注意を払うのだろうか。★(「カルチャー・レビュー」12号より加筆の上、転載)

【参考文献】

The Legacy of Conquest: The Unbroken Past of the American West by Patricia Nelson Limerick, W.W. Norton & Company, 1998
The Final Forest: The Battle for the Last Great Trees of the Pacific Northwest by William Dietrich, Penguin USA, 1993
The Last Wilderness by Murray Cromwell Morgan, University of Washington Press, 1976

■プロフィール(こはら・まさを) 某短大で、コンピュータ・ネットワークのシステム管理を仕事にする傍ら、コンピュータのための(同時に人のための)音楽の記述方法を思索中。また、NGO活動を経て、シンパブエの教育関係者との、支援についての共同研究に参加して(使われて)いる。

新宮市住宅地図調査日誌

新宮で読む中上健次

村田 豪

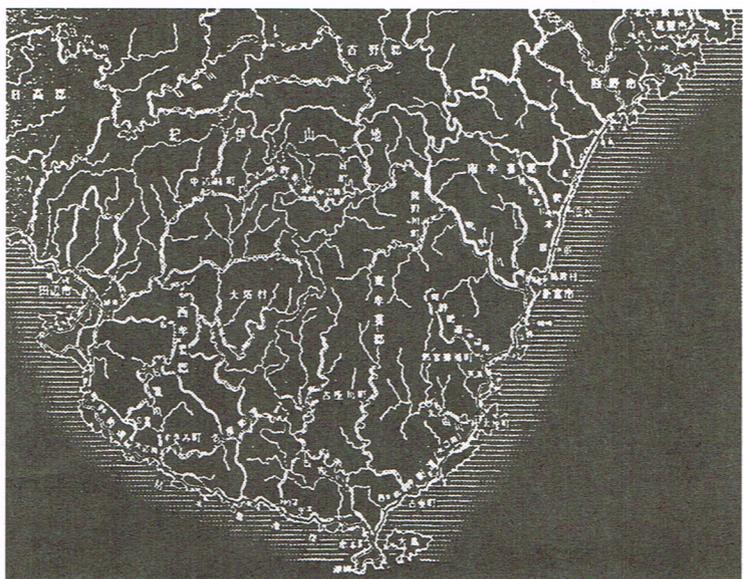
和歌山への出張先が、新宮市だと知らされたのは、その二日前だった。地図会社の調査員のアルバイトをして二年になるが、その時々、進行状況に応じて仕事が出てくるので、どこへ飛ばされるのか、直前になるまであいかわらず分からない。「新宮ですか」担当の社員から諸々と図面を受け取りながらも、もっと早く教えてくれたらなら作品も読み返せたのに、と内心で不満をこぼす。

新宮

「新宮」といえば中上健次、中上健次といえは新宮。中上の読者なら、たいいていこのような観念の呪文をたずさえていて、なかでも熱心なファンによる「熊野詣」「新宮詣」は、後を絶たないらしく、知り合いにも「行って来たあ」と目を輝かせて報告してくるものがある。作者の死後、毎年夏に当地でシンポジウムが開かれていたのも、そういう動きを後押ししているかもしれない。しかし、中上作品を読んで感銘を受けてきたけれども、自分自身が、作品に繰り返し書き込まれた新宮に向くことになるとは、決して考えていなかった。熱心でなかっただけといわれればそうだが、作品を素晴らしく思うこと、作者作品に縁あるものに出会おうとするのはやはり別のことだ、と決め込んでいたともいえる。だから、いきなり新宮に五日間滞在することになって、自分の準備不足が気になりだした。本当は、その場所を見知って読む「枯木灘」とそうでない「枯木灘」は違う、となんとなく直観していたのだ。

だが、結局満足に作品を読み返すこともできないまま、前日の夜から新宮駅の東側の裏にあるビジネスホテルに泊まり込み、調査を開始することになった。朝、ホテルの駐車場に出てみると、晴れわたった冬の空の下、町を熊野の山々がとり囲んでいる様子が一望でき、「山と海と川に囲まれた小さな町」というような一節を思い出させる。

ところで、住宅地図の調査とは具体的に何をやるのか、説明する必要があると思う。版を改定にするにあたって、主に居住者、店舗、地名、番地などの変更がないか、ビル、家屋、敷地、



道路などの割付に変化がないかをつぶさに歩き調べる作業がそれなのだが、そのため調査地のなかの道という道、私道であろうが、小道やあぜ道であろうが、家屋と家屋の間隙としかいいようのないところであろうが、歩かないところはないのであり、副次的にこの作業はその土地にたいする独特の感性を養わせることになる。はじめ訪れた場所にも関わらず、調査後には頭の中ですべての道を歩き直せるぐらいに、その土地の風景を再現できてしまふのだ。だから、わたしはあらかじめ下調べもせず、うる覚えの作品イメージだけでもいいと思っただけで、それだけ綿密に踏査するのだから、いくつもの作品で繰り返し描かれる「路地」、七十年代終わりからの市街開発で実際には消え去ったはずであるにしても、その痕跡ぐらいいは見つけることができるのかとたかきくっていた。

しかし

そんな単純ではなかった。初日、「ここで子供の頃の中上は泳いでいたのか」というようなおぼろげな感慨にひたることは

できて、調査図面と各家屋の表札を照合し続ける作業を通してでは、どこに中上の出生地の「路地」があるのか、作者が撮影された「枯木灘」の主人公秋幸が八歳まで暮らしたという家はどこにあたりにあったのか、分りようもなかった。ところが、夜ホテルに戻ってみると、観光案内のチラシの簡略な地図に何ともあつげらんと「作家中上健次生育の家跡」と明示してある。それに何より、その地区は自分の調査担当ではないことが判明するのだった。いくら綿密に歩いて見てもそれでは見つかるはずがない。

翌日からは仕事時間以外の早朝と夜に、ホテルから十分とかならない「路地」跡、春日地区も渡った「路地」横の踏切、「地区改良」の名のもとそれまでの家屋を潰し建て替えたという「改善住宅」、「路地」と裏山を完全に消滅させたスパーと道路、それらは確かにあった。分かってきたことだが、「千年の愉楽」や「奇蹟」で描かれた濃密な共同体としての「路地」、開けつばなしの玄関、オバたちが軒先に植えた小さな花、土埃のたつ路、裏山のほうへあがる石段、そういったものがあるなど思っていたわけではない。けれど、何か物足りなく、「こんなところだったのかな」というような気がしな

この

最初の拍子抜けのような印象を、しかし、決定的に変えるものが実はあった。結局それは、単にその場所をくまなく歩くのではなく、作品こそを丹念に読み返すことだった。ホテルに戻って夜、

作品を「岬」から読み返していきつぎ始める。たとえば「花がおつた。路地をまがり、駅前からの通りを突っ切り、畑の中の道を歩いた。」という箇所。もちろんこれは、作品の人物秋幸と姉の美恵の行動を描いているにすぎないが、「さつき自分が歩いたそこだったのか」という感じがしてならない。「枯木灘」でも「秋幸の家と美恵の家の間の道は駅からの通りにつながっていた。その道に平行するように小高い山はのび、山からの道は製材所の横にも出るのだった。」とあり、ホテルの窓から窺える夜の闇の町の「あのあたり」に、彼らの家が必ず同定できるように思えてくる。なんとというリアリティが、

次の日そう思って再び歩きなおすのだが、起点となる踏切や駅前からの通りは分かる、裏山を削って平らにしたところに建った問題のスパーもわか

る、けれどやはり「路地」がどんな家並みを持ち、そこから義父たちと暮らす秋幸の家に向かうのかわかりはしない。「株式会社上組」(もちろんここでは「中上」は「ナカウエ」とよむ。作家本人の名を「ナカガミ」とよむのは、上京したフウテン時代そう呼ばれるようになったかららしい)の看板を掲げた事務所は市立図書館の前に見つけた。そこからなら秋幸がダンブカーを国道に駆り出す方向がピッタリあつて入った。しかしそれが中上の親族が経営する土建屋で、作品に出てくる「竹原組」の完全な対応物としても、そこに中上の親族が住んでいたのかどうか、いや、というより、そうだとすると、それが作品内の秋幸の家だと同定することなど、誰にとつてもありえないだろう。

地図調査

た散歩でこんな風に新宮の町中を歩き回り、わたしは「まさにこれか」と感じられるものを探し続けた。浮島の森や倉神社、城跡、浜の防風林なども作品に描かれる「ここか」と思はするものの、観光案内にも載るような名所のたぐいでは「ここだったのか!」という強い感じを与えることはない。むしろ知りたいのは「駅裏の新天地で店を持っているモン姐さん」のその店であり、秋幸が恋人の紀子に電話をかける喫茶店「アカシア」の赤電話なのである。

これはバカげた思い方だと自分でも気づく。小説に書かれたものがそのまま現実であればいいのか、しかもすでに時代が違うではないか、「アナクロリズム」ともいべきその倒錯を人からわられるかもしれない。それにどう考えたって、秋幸という主人公は、生い立ちや家族関係が作者のそれにほとんど対応するとしても、フィクション上の存在なのである。にもかかわらず作品を読んでいると、虚構としての細部と、現実の中上が新宮で生きた細部が一致しているという感じ、それが拭えない。むしろ「岬」「枯木灘」の果て「至上の時」においてはとくに、中上自身がそういうところをみしているように思える。

証拠はたくさんあるが、傍証するなら、たとえば「熊野集」ではないか。そう思って、駅前の商店街にある「ゲート書房」で買い込んで、夜中またホテルで読み返すと、以前から変だと思っていたことが次第にはつきりしてくる。この短編集の中で、中上は、アメリカや韓国を行ったり来たりしながらも必ず新宮に舞い戻り、そしてそこでの生活や人との交流を描いている

ドメスティックバイオレンス
(夫やパートナーからの暴力)から脱出しませんか。

私たちは、同じ立場であなたと向き合います。これからのために、下記のアドレスまでご相談ください。

E-mail:kabo8@abelia.ocn.ne.jp

CORAIN

DV被害者の会 コパン(なかも)

のだが、町で出くわす実際の実父が、情けない姿をさらし、自分の作り上げた悪の権化「浜村龍造」の片鱗もないことに、奇妙にも腹を立てているのである。さらにおかしいのは、自分の姉たち、その娘たちに生じた騒動を描く際に、彼らを平気で「枯木灘」の人物名で通すのだ。「秋幸」と「美恵」はきょうだいとして、はたして中上と「美恵」はきょうだいなのか。これではあたかも、作品にこそ現実のほうに似るべきだ、というようなものではないか。

しかしそうなのだ。「熊野集」の中上は、自分の書いたものと現実の「路地」とがずれていることに苛立ち、再解釈するように迫られていると感じる。現実の「路地」が消えようとする今、老婆たちの話を採取し、若衆をつれて「路地」の風景を映画のフィルムに収めることで、むしろ自分の中の「路地」を浮き彫りにしようとするのだ。

若衆と私の違いは、映画を廻すのに一方は生まれからずと路地に住んで来た者らしく、壊されて更地になるので現実の路地を撮ろうとするが、私は他所で住んだ者として見出した路地を撮ろうとする事だ。見出した路地とは単にこんがらがった配線の頭をもつ私の中にある。それは言ってみれば発見する事によって侵略するようなものだ。つまり私が映画に残しておきたいのは小説家が視る事で侵略し発見する事で収奪したただ一人私所有の路地だった。(石橋)、「熊野集」

すでに

死んでしまった者たち、作家自身知らなかった「路地」のかつての姿を、オバたちの話によってありありと細部まで思い描き、書きつけ、幻のように現れるその存在を、映像にさえ収めようと肯定すること。その感覚こそが、物語と私小説のきわ

めて特異な混合を可能にしたのではないかと、という気がする。だから、中上が絶賛する熊野、新宮の光、緑、街を見てみたいところを訪れるファンは直観は、正しいかもしれない。書かれたことがそこに存在するという驚き、そして同時に書かれてあることがそこに存在しないという驚きは、やはり直に見てみなければ分からない。そのことが作品の価値すべてではないにしてもいい。

しかし、そう思ってみても、やはりどこかしらは続く。昼間の調査で別当屋敷あたりを歩けば、作品においてはその高台にあるとされる浜村龍造の家をふと探してしまふ。夜になって春日にある居酒屋「彩葉」のカウンターで一人飲んでいたら、酒焼けして表情にすみのある作業服の男がホステスを連れてやってき、隣に座るのだが、女将とカウンターの越しに話す言葉はまったくろれつが回っていき目線が遠い。ばかばかしいとは感じながらも『地の果て』のヨシ兄ではないかと思ってしまう。「通りを左に折れ、まっすぐに歩き、一つ目の信号を右に折れた。」店を出て、秋幸が夜の闇を歩いた道順をそのようにたどってみるが、なぜこんなにローカルな場所の「左」や「右」が厳密に書かれなければならないのか、それが分からない。分かるのは、秋幸も中上も、やたら新宮の町なかを行ったり来たりしてばかりいることだ。

作品

を読むために地図調査が要請されかねないほど、中上の小説は現実の新宮に依拠したものと気づき、それはひとつの発見ではあった。現に中上は地図を問題にしていた(「十九歳の地図」「覇王の七日」)。けれど同時に分りやすいものが多いことも多すぎるのではないのか、単なる旅行者はもちろん、土地の人でさえ知りようもない、しかし歴然と存在するなかを中上は書き込んでいるのではないのか。そういう疑いを強めはじめて、とうとう調査の最終日になった。

担当図面の最後のページ、市の中心部から少し離れた石ヶ坪という山手の住宅地を歩いていて、はっとする。車両置き場に「中上組」のダンパーがあり、「人夫」たちが車を洗っている。その向かいに「中上」の表札のある民家があったのだ。図面にも確かに「中上」姓の世帯主の名があった。しかしこの場所は作品に出てくるところなのか?

調査に厳密を期すため、表札などが出ていない場合については、住人に聞き込んでまで表記に間違いがないか確認することがあるのだが、この時、表札が掲げられていたのだからそのま

ま通り過ぎればいいものを、わたしは逆に必要もないのにその家の前に立って呼び鈴を押すのだった。部屋の中の人影が動き、年輩の女性が玄関を開けて対応に出てくる。中上の義理の兄「文昭」の「嫁」に当たるその人ではなからうか、と思うと少し緊張してくる。

「地図を新しくするので、お名前を確認させていただきます」と迷っていた。そして、結局出てきたのはこの呼び名だった。「ごちんのお宅は、ナカガミさんでよろしかったですね」。

ところどころ

その女性は、わたしの作家的な間違いにも動じることなく「いえ、ナカウエですよ」とごく自然に訂正してくれて、わたしが知りたがっていることの何一つも持ち合わせない、そんな感じであった。そして最後には「ご苦労様」とねぎらいの言葉までかけてくれるのだった。「ナカガミ」という呼び方に何らかのリアクションを期待してもいいし、また「中上」を「ナカウエ」と読むことを知っているほうがかえって奇妙に思われるのではないかと配慮したつもりでもあったが、その人はそれらには反応することなく、家の中に戻った。

調査を完了し、夕暮れに染まった坂道を町のほうへ降りながら、やはり、そんなことはわたし一人の思いこみにすぎないと、だんだん恥ずかしくなるのだった。新宮も、そこで暮らす人も、中上の親族でさえ、中上の作品と関係なくあるのがある意味で当然なかもしれない。この土地の何もかもを作家中上健次や作品で書かれていくことに結びつけて考えるのは、いわゆるファンの特権というものであろう。新宮に来て初めて「通りを左に折れて」という記述に対する臨場感を手放せないが、それは本当に「まさにある」ということなのか、なぜ新宮に来る前にはひしひしと真近に感じなかったのか、そのことについてはもう少し考えるべきなのかもしれない。

その夜、新宮駅から特急で名残を惜しむ間もなく帰阪した。
 (「カルチャー・レビュー」15号より転載)

■プロフィール(むらた・つよし) 一九七〇年生まれ。現在は、某出版社で勤務に励む毎日。もう十年以上前、手伝いをしたとあるアートイベントの会場で、それを見に来た中上健次におにぎりを売ったことがあった。といっても、当時は中上作品を読んでいなかったで、感激するようなこともなかったのだが、ただし、よれたジーンズをはいてにぎりめしを頼る彼の姿は、自分のイメージする作家らしさはほぼ遠く、そこに好感をもったことを思い出す。

書店

「本」の取り寄せ奮闘記

山田利行

■人の記憶はまったくあてにならない
 もうずいぶん前、十年以上にもなるでしょうが、配達や外回りの営業を盛んにしていた頃、神戸は六甲山麓の教育環境に恵まれた？住宅街の一軒を訪ねた。傾斜四十五度(はオバーですが)の桜並木を登り詰める途中にそのお宅がありました。サクラは咲き終わった頃で、新緑の季節でした。

■子ども
 さんに読ませる本の相談だつたのですが、母親は記憶をたどりながら、「ええーっと、何だったかな? そうそう、エマニエルの冒険!」私はレスポンス(応答)にちょっと間が入った。エマニエル? ああ、あの遠慮のない裸の? エマニエルが何だったか判明するや、笑いを押し殺すのにとれほど腹筋を使ったことか。「ああ、エルマーの冒険!」と連想ゲームよろしく脳の記憶装置から回答が得られて、なにげなく返したけれども、エマニエルの物語も「冒険」だったのかもしれないです。後日「エルマーのぼうけん」シリーズ三冊を無事届けましたが、連想ゲームに失敗していたら、「すみません、エマニエルのボーケンについては、あとで調べて報告します」ということになったのかもしれない。

人の記憶はまったくあてにならない。いや、自分の記憶ですら、そうです。A新聞の第三面の下に広告があったはず:図書館までわざわざ出かけ、重い新聞の束を練っても見つからなかったことは再々。だから、新聞に載っていたと言われても、100%信用しない、悪いけれど。

もともと、自信をもって間違える人は少ない。ある程度「確信」を持っている。出版社不明の書名を調べてもみつからないので、「どのようしてお知りになりましたか?」と訊ねると、「XXのワイドショーで放送されていたました」。ああ、テレビか:聞き違えたのかも知れないなあ。

「斎藤茂太 自分の骨は拾えない 二〇〇〇年六月」というメモで注文をもらった。著者の名前があるのでこの本は見つけられました

が、正しい書名は「骨は自分で拾えない」。著者名や発行年月までメモしてくださるのは優等生です。

■あいまいな書名から探し出す技

どうにもしようがないのは、今読んでいるらしい本の中に引用されている本の注文の場合。その本は読書中の本よりも古い本に違いない。読書中の本が古い本ならばもともと古い。著者の引用の仕方がまずいのか、目当ての本が見つからなくて困ることが多い。この場合も、「読んでいる本に載っていません」と一言申告してくればどれだけ助かるか。著者によっては原著の刊行予告をする人もいるように、「もう出ているはずだ」と注文してくる。予定したタイトルは変更になっていくかもしれないし、予定通り出る本なんて、ごくごく有名な著者に限られるだろうし……。

不明の

発行所や、あいまいな書名から正確な書名を探し出すのは、今やむずかしいことではありません。私の場合は、インターネット上の検索サイトでは、日外アソシエーツのBOOKPLUS・TRC・書協のブックス・国会図書館、そして各

出版社のウェブサイトを、さらにYahoo!などの検索エンジンで、ときにはオンライン書店の在庫検索などを駆使することで、九十%以上(九十九%と表現してもいいかもしれませんが)は解決します。

探し出せないのは、未刊、ごく最近の刊行物。「探し出せない」は正確でなく、手間がかかりすぎるといふことになりませんか。出版社がわかっているならば、電話して直接確かめるのが手取り早い。

ムックやコミックも探しにくい部類に入ります。そもそも、注文主(読者)が、何が「書籍扱い」で何が「雑誌扱い」(註1)なのか、未刊か既刊か、よくわかっていないことが多い。ましてや、コミックに「書籍扱い」と「雑誌扱い」があることなんて。某出版社の「+α文庫」と「+α新書」の違いに気づかず、取り違えるだけで事故になることも。どうしてこんな紛らわしいことをするんだらうと思う。この某出版社については「文芸文庫」「学術文庫」「一般の文庫」、これらの既刊・新刊の別、これを調べた上で発注方法を考えなくてはならない。何も考えずに注文短冊(註2)を取次にまわしてしまえばそれでもいいので

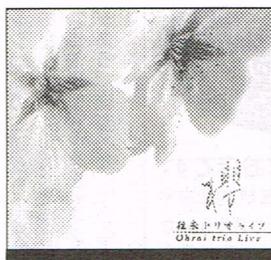
〈こんなジャズ〉が、聴きたい。

おーらいレコード最新作!! 2001年8月22日発売



音三昧 I
 小山彰太デュオ集
 SICH-1007 税込価格/2,940円
 曲目:ソオンボン・トーライタイ・フルン/はにやんの新居物語/円周率(π)/血の声/二人旅/ソロ・ドラマ
 メンバー:小山彰太(drums) 坂田明(alto sax) 山下洋輔(piano) 林栄一(alto sax) 國仲勝男(oud) 井上敬三(clarinet)

さくらレコード第1弾発売 2001年8月22日発売



櫻
 往来トリオライブ
 SICH-3001 税込価格/2,625円
 曲目:シクロ/オンパク・ヒタム/月の壺/ピリンパウ/パラム/往来
 メンバー:林栄一(alto sax) 斎藤徹(bass) 小山彰太(drums)

春風の花を散らすと見る夢はさめても胸のさわぐなりけり 西行



発売元◆(有)おーらい
 〒540-0004大阪市中央区玉造2-28-23-80
 Tel.& Fax : 06-6761-1721
 H.D : 090-8389-8408

すが、「入荷まで一か月以上かかる」は頻出するでしょう。一か月以上待って「品切」の事故伝が返されてくることもたびたびですから、書店の悩みのタネになっているはずですが、注文主が「文庫」と明記しないことも多く、前述したように誤記も多く、某出版社の注文については、全点確認作業が必要です。ですから、あいまいな書名から本を見つけたら、こちらは容易な部類になるのです。

はい、ここまでの要点。注文主(読者)は、「新刊・未刊」の区別をつけず、「書籍扱い・雑誌扱い」の認識は程遠く、読んでいる本をもっと深めたい欲求を満たしたいと思ひ、少し配慮して注文のメモを書いてくだされば間違いも混じる、などなど、そういう存在なのであります。これをやさしく受け入れるのが書店の役割ということになると思うのですが、どうでしょう?

■ほんとうにあった、ウソのような話

某月某日、都内のY社に電話をした。注文した本が四十日経っても来ないものがある。督促もしたのに、何も言っていない。事故伝も返されてこないから、いったいどうなっているのだろうか?
 対応に出たのは女性(五十歳代かな?)

●「書名A」とか「書名B」が入ってこないの
 ですが、どうなっているのですか?
 ●よく売れているので、ありますが…(無意味のと決めたから、あつさり言われてしまつて拍子抜け)

●そしたら、もう一度 出してくれませんか?
 ●取りに行つてくれませんが。倉庫にありません。社長の行くといいますが、なかなか行きません。

●あるんだつたら、取りに行つて下さいよ。
 ●私はここに一人で行くから取りに行きます。社長の行くといいますが、なかなか行きません。

●行かないつて…?
 ●他の書店からも文句がいっぱい来ています。社長は二週間もあつたら届けるなんていいます。すけれど、ぜんぜん行きません。

●行つてくれないと、困るよ! (つて、他人の私が言うセリフかな?) ああ、そこには何人いるんですか?
 ●私一人。男の人も一人いたんですが、病欠です。社長は関西へ出張中です。

●社長が営業したつて、品物が出ないんだつたら、どうするの? (私は、アタマがヘンになりそう。おかしくつて笑いがこみあげてくる) どうするの?

こつちが注文したものは、どうなつてんの? ●ここにあります。いっぱい溜まつてます。半年も前のもあります。(ゲツ! もう、めちやめちやゲツ!)
 ●えーっ、そんな、あかんわあ。…。(あきれ言葉失う…)
 ●社長にまた言います。話し合つときます。(話し合つても、もうあかんわ)
 ●もうええですわ。あきらめます。

これは作り話ではありません。ホントにありました。一九九八年のこと。出版社の中には個性の強いところもある。だけど、これほどのは初めての経験。データベースを調べてみると、この出版社はしばらく出版活動をしていない。廃業こそしてないだけ。あゝあ。

■かかりつけの本屋・馴染みの本屋

今日明日でも欲しい本を調達するのは、無店舗(在庫なし)注文専門の当店にとつては原則出来ない相談。出版社から直送依頼して急場をしのぐこともありますが、
 現物を見て購入を決めることもできません。しかしながら、近くに本屋がない・本屋に行く暇がないとか、あまり細かいことは気にしないとか、人混みが嫌いだとか、積極派としては、ヒントブックなら「かかりつけの本屋・馴染みの本屋」にいいということ、

会員希望の人たちはいるものです。潜在的には数万人(オーバーかな?)は、いると思うのですが、PRが行き届かなく、これはこれでもむずかしい課題です。
 ホームドクターのように、この本ならば、ここに行きなさい、つまり、この方法で調達しよう。検査入院したならば、つまり、色々問診して本を探しましょう。このような作業という仕事は書店でこなせたら、新刊のベストセラー追いつけりやなく、旧刊の宝の山をもっと掘り起こせるように思うし、そこに書店のプロとしての魅力があると思うのですが、どうでしょう? 数千あるといわれる出版社の出版活動は、本来そういう趣旨だったのではなかつたでしょうか?

■昨日

「客注」の調達方法について、流通業界ではインターネット書店システム・新方式」が稼働し始めましたが、コンピュータがらみの物流テクニク先行型。読者が早い調達を望んでいるのは当然至極ですが、なんでもかでも特急を要求しているのではなく、より欲しいのは的確な情報であり、情報を価値にするためのアドバイスだと思

のですが、どうでしょう。
 よろしかったら、ヒントブックのウェブページを覗いていただけませんか? そこに「ブック海溝」というページへのリンクがあります。ここに、本を調達したり探したりする役立ち? 情報を集めたいと考えています。読者の視点だけでなく、書店など業界関係者にも参考になれば、と思つたりしています。果たしてどうなりますか? 情報提供のご協力をいただける同業者がおられましたら大歓迎です。

同じトップページには「千冊万来」というブックガイドへのリンクもあります。これは会員に火水木金の週四日配布している『Book Boat』というメールマガジンを反映させたものです。オンライン書店の網羅的データベースとはまったく違う(真似なんてできないから初めから諦めています)もので、もつぱら問診用に使えないかな? と思ひ、日々増殖させています。
 また会員とのコミュニケーション誌「さーがす」を月刊で発行しています。こちらの購読希望は会員になってください。

さて、「客注」とか「注文品」というものは、「新刊委託」に対して、例外のような扱

倫理/哲学

倫理して何なんだ〜!

倫理の共有は可能か?

ひるます

心とは何か? を探求するマンガ「オムレット」の中で、心に関する様々なテーマについて対話をしてきた二人、古本屋主人の伊丹堂と大学生の猿渡瀬くん。今回は特別篇として「倫理」について語ってもらいましょう。

猿渡瀬…倫理って何なんですか?
 伊丹堂…なんじゃあから棒に。
 猿渡瀬…つていうか、ひるます氏のホームページではこのところ、ずっと「倫理」についての話題が大半を占めてたじゃないですか。でも書評やら時事問題にからんでアチコチ話ごとんでるので、ここらで一つまとめてみてはどうかと思つたワケです。
 伊丹堂…ふうん。そう言うならキミがまとめてみたまえよ。ワシは聞いてて横槍を入れさ

いを受けているのが業界の現実です。このことが、読者と書店(出版社)との間にトラブルを絶え間なく製造しているように思えます。再販制度(再販価格維持制度/定価販売のこと)がなくなり「新刊委託」が「買切」になってしまえば、「注文」はやつとフツフに扱われるようになるのでしょうか? 事はそう簡単でもないようにも思えます。「注文品」とつきあい続けるのは、疲れますね。
 (カルチャー・レビュー) 13号より転載
 ヒントブック:
<http://homepage1.nifty.com/hint-yi/>

(註1) 出版業界では、「書籍扱い」と「雑誌扱い」という二通りの流通があつて、仕入・配本・請求の仕方が異なり、書籍扱いの雑誌や雑誌扱いの書籍(新書判のコミック、ムックなど)があり、その外見だけでは区別できないことが多い。
 (註2) 「注文短冊」の「短冊」とは、注文書が短冊のような形式に由来した業界用語。本に挟んであるスリッパのことを「注文短冊」とも言う。

■プロフィール(やまだ・としゆき) 大学では理学部在籍していたが、文学部の図書館学を履修。半年半で中退したので司書の資格はない。一九八四年、ヒントブックを開業。それ以前に書店勤務経験はない。開業当初から出版社への直接注文

せでもらうから(笑)。
 猿渡瀬…なんですか、それ…。まあともかく時間もないうちで始まりますが、なんとつても「倫理」ということが一般的にもクローズアップされてきたのは、例の神戸の少年殺傷事件をきっかけにしてジャーナリズムで「なぜ人を殺してはいけないのか」なんて問いが語られてからのように思えます。社会的な善悪の基準みたいなものが揺らいできた…つてことでしょうか。
 伊丹堂…ふふ、そんなものがそう簡単に揺らぐハズもないんじやが、基本的に「悪」という見なしができてくれない、どこにでもいそうな少年がそのような犯罪を為したということがよつて、そういう問いを語ることにリアリティを持つちうる状況が出来たつてことではあ



「オムレット」ひるます著

猿渡瀬…:…そういうことでもなければ「哲学的な問い」がリアリティを持ち得ないつても皮肉なものです。
 伊丹堂…しかしそれが「哲学的な問い」と言えるホドのものなのかいな。この問題についてはすでに何度も触れてるんでここでは深入りしないが(註1)、基本的に押さえておかななくてはならないのは、この問いそのものは実は「倫理」とはなんの関係もないつてことじやな。

アジア雑貨とお茶の店
rocio
 オンラインショップもよろしく!

アジア好き、雑貨好き、お茶好きな2人が開いた小さなお店です。4月にリニューアルOPENしました! タイ・ベトナム・インドネシアより伝統的な布や器から、ちょっと珍しいユニークな小物、そしてrocioオリジナルのブラウスやbagなど、こだわりのアイテムがいっぱい。併設のお茶コーナーでは、現地から直接取り寄せた上質な中国茶(青茶、緑茶)を本格的な茶器を使って楽しんでいただけます。また、ネパールのチャイ、ハス茶(ベトナム)、ゆず茶(韓国) ナツメ茶(韓国)などもご用意しております。オンラインショップへもぜひお立ち寄りください。

〒622-0008 神戸市兵庫区上祇園町1-2-102
 tel&fax/078-362-5501
 E-メール/rocio.tearoom@nifty.com <http://homepage2.nifty.com/rocio/>
 営業時間/10:00~19:00(土・祝/17:00) 定休日/日曜日

に挑戦。当時は取次経由の注文が大勢だった。マシンの四階が自宅兼仕事場、つれあい二人でヒントブックを楽しくやつていく。著書に「自立建築のあるまちづくり」(共著/北斗出版)がある。

猿渡瀬..その場合の「倫理」ってのは、すでに特殊に定義された用法ですよ。伊丹堂..つまり共同体規範としての善悪とは関係なく、より「良い」状態に向けて、自己の責任において為される行為としてホドの意味じゃない。ようするに「実存」の問題と云っていい。

猿渡瀬..それは柄谷行人の「倫理21」(註2)における「倫理」と「道徳」の使い分けにはほぼ相当するということでしたね。伊丹堂..完全に一致するわけではないが、ともかく、共同体のルールに従う行為、主体的な判断を介すまでもなく、あらかじめ善悪が確定されているような局面を「道徳」と呼び、そうでなく、主体的な関わりとして為される判断や行為の局面を「倫理」と呼ぶ、...

猿渡瀬..とすると、道徳という共通の価値基準と合致するようなコトを為してもそれは倫理とは言えないでしょうか。伊丹堂..もちろん社会全体としてもっている価値の共通感覚をヨリドコロにすることなしに、「決断」をしては突拍子もないことになってしまう。しかし倫理的行為というのは、そういったヨリドコロを単になぞっている(反復している)だけではない。具体的な場面ではある面から見れば価値基準に則って善と言えても、別な面から見れば善とは言えないというようなことはおおうにしている。

例えば見知らぬ人が線路に落ちたのを助けようとして巻き添えになったという場合、それは人を助ける行為としては善と言えるかもしれないが、家族やまわりの人を不幸にしたという意味では悪かもしれない、ということじゃないか。猿渡瀬..一概に確定しえない状況だからこそ、決断によって決定するしかない。それがウラハラに責任を引き受けることでもあるわけですね。その決定は誰かがしてくれるわけでもなく、自分がするしかない、そういう意味で実存の問題なんだと。

伊丹堂..つまり倫理的行為ってのは、創造であり発見なんじゃない。だから誰も思いもよらなかった倫理的行為というのがありうるが、誰も思いもよらなかった「道徳」ってのはない(笑)。

猿渡瀬..たしかに。伊丹堂..もうひとつカンジんなのは、個々の場面において、人はそういう意味での倫理的行為をしてもいいし、しなくてもいいってことじゃ。倫理的行為をしない自由というものがあられるわけじゃない。というかそういう自由とウラハラのものこそ倫理と呼ぶ、これも定

義じゃない。猿渡瀬..倫理とは「あえてしなくていいにもかかわらずしちゃう」というカタチを取る、ということですね。これは以前ひるます氏が脳死・臓器移植法改正問題について議論したときに(註3)、脳死における臓器提供は本人の「倫理的決断」においてのみ許されるのだから、本人の意思なしで強制的に提供を決定してしまう改正案(いわゆる野野案)には同意出来ないという時の根拠にもなっていました。伊丹堂..倫理性の担保とか言っておったの。この問題についても触れてる時間はないが、

伊丹堂..それはある意味でそれ以上、週れない問いじゃない。人はともかく、人間同士の関係の中で、なんらかの「良い」状況をめがけて行為してしまう、としか言えない(註4)。猿渡瀬..関係の中で、ですか。たとえば柄谷さんはカントを引きつづいて「他者を目的として」ということを揚げていますが、ようするに他人の救済とか援助といった「目的」をもった行為が「善」だということではないのですか。伊丹堂..そりゃ臓器提供が善だという論理と同じで単純な規範化じゃよ。「他者性」の問題はもうちと繊細に詰めておく必要がある。猿渡瀬..というところ?



ひとつだけ言っておくと、臓器提供が善意に基づく倫理的行為だとすると、すぐにあなたも臓器提供が他人を救済する行為だから(いわば規範として)善だと主張しているかに取られてしまうが、これは今言った意味で「関係がない」。

猿渡瀬..そこでもう一步話をすすめると、ここまでで「倫理」というのは、共同体規範とは「関係ない」としても、ようするに何らかの意味で「善」を志向する行為とは言えますよね。その「善」とはそもそも何なのか? ということです。そしてさらに、人はなぜそのような「善」をなしているか、ということが問題になると思います。

伊丹堂..ようするに「他者」というのは「目的」としてとってつけたように出てくるのではなく、ワシらの行為に構造的に関わってくるものだってことよ。つまり基本的に、どのような行為であっても、人が行為を為すときにはそれは必ずなんらかの意味で他者を配慮したものになっている。他者との共通理解が可能な形式で、我々はコトの連鎖(論理)を作り出す、というカタチでしか行為しえない、ということじゃ。

猿渡瀬..コトの創造ですね(註5)。伊丹堂..必ずしも明確なコトバになっていないけども、行為そのものが「論理」的な成り立ちをし、他者を配慮しているってことじゃな。

それによって、ヨリ普遍的(まっとうなもの)にしようにとめがけてコトは創造されるのだから、その意味で、アラユル行為(コトの創造)は倫理的である、ということが言える。猿渡瀬..「倫理」そのものではないんですよね(笑)。

伊丹堂..ようするに「我々にとつて」の視点から見れば、倫理的な形式を持っている。当の本人にとつて「倫理」かどうかは別として。ところで当の本人が他者を配慮するといつても、別に常にアラユル他者のことをすべて配慮するなんてことがあるはずもなく、さしあたって自分がワカル範囲、すでに共有が成り立っている範囲内で適当に配慮してなされるわけじゃない。

猿渡瀬..ひとりよがりってことですね。伊丹堂..そう。しかし逆に言えば、アラユル他者を配慮するなんてことはそもそも不可能じゃよ。

猿渡瀬..それが出来たら「神」ですね。伊丹堂..しかし不可能とは言っても、我々はなぜか知らんが、「すでに共有が成り立っている範囲」を超えた他者を配慮して行為しようとする。ようするにそういうとありあらずの共有では、ほんとうに良い・ほんとうに正しいことではないかもしれない。ヨリ普遍的なコトとは何かを考えるわけじゃ。

猿渡瀬..そうしなくてもいいにもかかわらず、ですね。それが当人にとつての「倫理」ということになるわけですか。ただ、どうしてそれが絶対的な普遍に到達することはできないわけですか。伊丹堂..それは原理的にしようがないわな。しかしいざしにしても単なるひとりよがりではない。また家族や身内・知り合いといった自分に関わりがある限りでの関係性のみを配慮しているだけではない。

猿渡瀬..家族や身内だけのことを考えるなら「倫理」ではないですよ。むしろエゴイズムの変形でしょう。

伊丹堂..あと「世間」とかな。原理的に言つて「自分がすでに分かっている他者」を配慮して行為するのであれば、オートマチックな行為であつて、そこに自分の判断や責任は必要ない。ここで問題になっている他者への配慮というのは、常にそれを否定する他者を想定する、という否定の運動のことなんじゃない。当人にとつての「倫理」というのはそれを「自覚」し続けることのウチにしかない。

猿渡瀬..それが永続的な他者への配慮ということですね。伊丹堂..ただ配慮し続けるというと、なにか

問題を常に先送りしているかのように聞こえるが(笑)、ようするに否定し続けるということであつて、すでに言ったように「倫理」というのは、その都度責任を引き受ける決断としてなされるほかない。

猿渡瀬..それが実存たるところでしようが、そこでもう一つ問題なのは、そう言うことや「責任はとる」としても、なにか言いつぱなし・やりつぱなしという感も拭きません。つまり「自己決定権論者」はそういうことを言うわけですね。

伊丹堂..自己決定権論者も「配慮」とはらんじやろ(笑)。配慮しつづける行為というところが何を意味しているかと言えは、実は(よくよくスジミチをたどってみれば)その行為の「まっとうさ」が、自分だけでなく「他の誰にとつても」妥当するはずだ、ということと訴えかけている、ということなんじゃ。

猿渡瀬..共有を訴えているというのか。伊丹堂..共有と言つても、もちろん誰もがそういう倫理的行為をすべきだ、というのではないよ。人は非倫理的に生きる自由があるんじゃないから。しかし理解可能だと言つておいて倫理的行為は創造されている。もちろん相手に迎合するのではなく、普遍的に立つたろうというところを、訴えかけるわけじゃ。むしろその相手の分り方をも否定する他者をめがけて説得がなされるのが、否定の先の先を配慮するということじゃ。具体的には知り合いない身内に分かつてもらいたくないわけではないってのは、言わずもがなじゃ。

猿渡瀬..キミだけに分かつてはしなかった、

オムレット

心のカガクを探検する

心の科学研究会G.N.C./ひるます著
A5判・150頁・定価1400円+税

心とは何か? 心はどこにあるのか? 自分はどこにいるのか? 人が生きる意味とは何か? など、一般の人々がふと感じる心についての疑問を、最新の哲学・認知科学・精神医学などの研究成果をふまえ、ストーリー性のあるマンガによってわかりやすく解説。初心者から専門家まで、幅広く読んでいただける快著!!

発行: 広英社 発売元: 丸善出版事業部

というのは泣き言ですか(笑)。

伊丹堂・矜持がないんじゃない。それはともかく、このような意味での「倫理」は、いわゆる倫理的・道徳的行為にのみ関わるのではなくて、科学や芸術・技術や起業など、アラユル人間の探求的な創造全般に関わることなんじゃない。

伊丹堂・柄谷も『倫理21』の中で、カントの物自体を独自に解釈して、打ち立てられた科学理論(仮説)に対して、常にその否定として現れる他者のことなんだと言っているが、まさに卓見ではあるわな。ま、科学的な知識といえども、倫理的なコトの創造であるというところは、マイケル・ポランニー=栗本慎一郎の暗黙知理論において、科学が個人的関与による創出であるということですので明確にされていくことではあるが(註6)。

伊丹堂・柄谷も『倫理21』の中で、カントの物自体を独自に解釈して、打ち立てられた科学理論(仮説)に対して、常にその否定として現れる他者のことなんだと言っているが、まさに卓見ではあるわな。ま、科学的な知識といえども、倫理的なコトの創造であるというところは、マイケル・ポランニー=栗本慎一郎の暗黙知理論において、科学が個人的関与による創出であるということですので明確にされていくことではあるが(註6)。

伊丹堂・柄谷も『倫理21』の中で、カントの物自体を独自に解釈して、打ち立てられた科学理論(仮説)に対して、常にその否定として現れる他者のことなんだと言っているが、まさに卓見ではあるわな。ま、科学的な知識といえども、倫理的なコトの創造であるというところは、マイケル・ポランニー=栗本慎一郎の暗黙知理論において、科学が個人的関与による創出であるということですので明確にされていくことではあるが(註6)。

伊丹堂・柄谷も『倫理21』の中で、カントの物自体を独自に解釈して、打ち立てられた科学理論(仮説)に対して、常にその否定として現れる他者のことなんだと言っているが、まさに卓見ではあるわな。ま、科学的な知識といえども、倫理的なコトの創造であるというところは、マイケル・ポランニー=栗本慎一郎の暗黙知理論において、科学が個人的関与による創出であるということですので明確にされていくことではあるが(註6)。

いわけじやろ。とりあえず「アタマで」理解してそれをやってみる、とか。

伊丹堂・それは経験の積み重ねの中の偶発事というしかない。文化の積み重ねや歴史の中で新たな創造が行われるというのと同じじやろ。歴史の中でさまざまな倫理的な経験の積み重ね、歴史と文化の中で、個々人も倫理的行為がなされるように(無意識的に)練成されているんじゃない。ハビトゥス(習慣)とかフーコーの言う倫理的的美学的様式化ってやつじやな(註7)。

伊丹堂・それは経験の積み重ねの中の偶発事というしかない。文化の積み重ねや歴史の中で新たな創造が行われるというのと同じじやろ。歴史の中でさまざまな倫理的な経験の積み重ね、歴史と文化の中で、個々人も倫理的行為がなされるように(無意識的に)練成されているんじゃない。ハビトゥス(習慣)とかフーコーの言う倫理的的美学的様式化ってやつじやな(註7)。

伊丹堂・それは経験の積み重ねの中の偶発事というしかない。文化の積み重ねや歴史の中で新たな創造が行われるというのと同じじやろ。歴史の中でさまざまな倫理的な経験の積み重ね、歴史と文化の中で、個々人も倫理的行為がなされるように(無意識的に)練成されているんじゃない。ハビトゥス(習慣)とかフーコーの言う倫理的的美学的様式化ってやつじやな(註7)。

伊丹堂・それは経験の積み重ねの中の偶発事というしかない。文化の積み重ねや歴史の中で新たな創造が行われるというのと同じじやろ。歴史の中でさまざまな倫理的な経験の積み重ね、歴史と文化の中で、個々人も倫理的行為がなされるように(無意識的に)練成されているんじゃない。ハビトゥス(習慣)とかフーコーの言う倫理的的美学的様式化ってやつじやな(註7)。

たの機会ということにしておこう(註8)。

伊丹堂・それは経験の積み重ねの中の偶発事というしかない。文化の積み重ねや歴史の中で新たな創造が行われるというのと同じじやろ。歴史の中でさまざまな倫理的な経験の積み重ね、歴史と文化の中で、個々人も倫理的行為がなされるように(無意識的に)練成されているんじゃない。ハビトゥス(習慣)とかフーコーの言う倫理的的美学的様式化ってやつじやな(註7)。

伊丹堂・それは経験の積み重ねの中の偶発事というしかない。文化の積み重ねや歴史の中で新たな創造が行われるというのと同じじやろ。歴史の中でさまざまな倫理的な経験の積み重ね、歴史と文化の中で、個々人も倫理的行為がなされるように(無意識的に)練成されているんじゃない。ハビトゥス(習慣)とかフーコーの言う倫理的的美学的様式化ってやつじやな(註7)。

伊丹堂・それは経験の積み重ねの中の偶発事というしかない。文化の積み重ねや歴史の中で新たな創造が行われるというのと同じじやろ。歴史の中でさまざまな倫理的な経験の積み重ね、歴史と文化の中で、個々人も倫理的行為がなされるように(無意識的に)練成されているんじゃない。ハビトゥス(習慣)とかフーコーの言う倫理的的美学的様式化ってやつじやな(註7)。

伊丹堂・それは経験の積み重ねの中の偶発事というしかない。文化の積み重ねや歴史の中で新たな創造が行われるというのと同じじやろ。歴史の中でさまざまな倫理的な経験の積み重ね、歴史と文化の中で、個々人も倫理的行為がなされるように(無意識的に)練成されているんじゃない。ハビトゥス(習慣)とかフーコーの言う倫理的的美学的様式化ってやつじやな(註7)。

第3回 京都映画祭 2001年9月23日~30日
■特集/阪妻百年 会場:京都市文化会館
■太秦スター特集 会場:祇園会館
■特別企画/ロシア帰りの日本映画
■国際シンポジウム 会場:京都市文化会館

伊丹堂・それは経験の積み重ねの中の偶発事というしかない。文化の積み重ねや歴史の中で新たな創造が行われるというのと同じじやろ。歴史の中でさまざまな倫理的な経験の積み重ね、歴史と文化の中で、個々人も倫理的行為がなされるように(無意識的に)練成されているんじゃない。ハビトゥス(習慣)とかフーコーの言う倫理的的美学的様式化ってやつじやな(註7)。

編集後記
★上倉氏のエッセイで紹介されている「陽暉楼」の導入のシーンは、私もよく憶えていたのだ。「聞き書き」での説明には至極納得。緒方善の存在が圧倒的な映画だったと思う。いまは亡き成田三樹夫も脇役で、いい味を出していた。

本紙賛助会員募集
本紙は、京阪神地区の主要書店(一部東京)・図書館・文化センター等に配布し、配布状況は順次ウェブ (http://member.nifty.ne.jp/chatnoircafe.lavue.html) に掲載しております。

るな工房/黒猫房/窓月書房
自費出版等のご案内
るな工房/黒猫房/窓月書房では、自費出版(特装本・限定本・記録集など)から商業出版まで、編集・製作・DTP・装幀・デザインなど出版全般のお手伝いを申し受けます。